

化学工業日報

The Chemical Daily

2017年(平成29年)12月22日

高千穂商事

西日本の販路拡大

大阪営業所を移転 貯蔵能力など向上

高千穂商事は、西日本での営業展開を強化する。今月に大阪営業所を移転する。従来の営業所より敷地が広くなり、貯蔵能力が増えるうえ、一部顧客へのアクセスも向上する。投資額は数億円

規模。九州出張所との連携を加速し、関西から九州にいたるエリアで販路拡大を図る。大阪府淀川区三国東の区画整理をきっかけとした移転後の新営業所は、敷地面積が約1200平方

方、建屋の延べ床面積は約1000平方方メートル。新大阪駅近エリアに立地していたこれまでの営業所は、東京以外の最初の営業所として1960年に開所。住宅開発も

進み、貯蔵能力や毒劇物の保管に制約があった。新たな営業所は制限が大幅に緩和され、広くなった敷地には装置類を保管する余裕もある。貯蔵能力の充実化によって、ロジスティックや営業面の強化が期待できる。スタッフの増員についても検討を進めている。

同社の営業拠点は全国5営業所、6出張所を数える。このうち、佐賀に置く九州出張所は2014年設置とグループ内では新しい。地域の大学や企業の研究開発機関を中心に、地道な営業活動により徐々に認知されてきているが、西日本はこれまで流通面で他地域より出遅れていた。貯蔵能力を強化した大阪営業所との連携により、迅速な物流で顧客の開拓を進めたい考え。